

館 報

お み

2月号
No.695

2025.2.25（令和7年）編集と発行／長野県東筑摩郡麻績村公民館
TEL 0263-67-2240



▲清水大さん国スポ2025 ジャイアントスラローム成年男子C優勝（秋田県 2月14日撮影）関連記事は3面

新春座談会(下)

目指しているもの

一月号に続いて、地域おこし協力隊伝統工芸班の皆さんによる「移住」をテーマにした座談会です。

伝統工芸班としての活動と自身の今後についての目標を伺いました。

司会 伝統工芸班が目指しているもの、今後の自身の目標みたいなものを教えてください。

木下 麻績村の千年以上前から歴史や文化を掘り出していききたい。

司会 掘り出して形や記録をしていく具体的な方法は、何か考えはありますか。

木下 僕の場合は和紙をやっているので絡めていきたい。完全に途絶えてしまっているのです。すごいレベルの高い技術なので、これを学ぶのは大事だと思いますね。

伊藤 物作りをする上で、素材が簡単に手に入る環境で、湧水があり、古民家を使わせてもらって、自然と歴史を感じています。麻績の素材を使って、麻績らしいものを作っていきたい。



▲伊藤朱音さん／木下良佑さん

村内でも伝統工芸班を知らない人もいると思うので、生活で使えるようなものを作り、使ってもらって知ってもらいたい。

小野 麻績の自然からとれるもので、もの作りをしていきたいのですが、伝統を守っていくだけでは続かないと思うので、自分らしさを入れながら、新しい要素というか、まだ方向性は決まっていらないのですが、新しいものができ

るようになって良いなと思っています。

杉山 もともと伝統工芸班のミッションは、麻績村で盛んに行われていた染物といった伝統などの復興や継承にあり、これまで行ってきたが、途中で新型コロナウイルス感染症がはやり、なかなか活動が難しい時期もあった。しかし、この二年は、麻績村でそのような体験をしたいという村外の方が確実に増えてきていると感じています。これは、私が来る以前の方々が、いろいろと培ってきてくれたおかげだと思います。しかし、この最終目標は何で、どこまでという到達点は、まだわからないですけど、私は個人でもその、作家活動をやっていて、県内外のクラフトのイベントでPR



▲杉山亜友美さん／小野光さん

しています。これからも、もっと麻績村を注目してもらえよう、活動してきます。

関根 私の協力隊としての任期は、あと一年ですけれども、卒業後には杉山さんみたいに自分で販売できるようになったらなと。

麻績の工芸をもっと村内外に知ってもらえるよう活動しています。退任後は、今行っていることを個人で作業することになるので、道具や材料集めに限界があると思うので、協力隊であるうちに勉強して、今後に活かしていきたい。

三田 先ほどの味噌の話にも関係するのですが、微生物の働きや発酵にすごく興



▲三田桃子さん／関根由真さん

味があって。柿渋や藍染も、微生物の働きによってできるもので、退任後はそのような作品の制作活動ができればいいなと思っています。また、何年後になるかわからないですが、作業スペースとして工房を建てられたらと思っています。

司会 伝統工芸班の皆さんの退任後については、お米やりんごなどを作る農業班の方々とは、また違う難しさがあるかもしれません。でも夢があつて、とても地域を愛してくださる素敵な方々です。どんどん力をつけて自立して頑張っていたらなと思います。

今日は、本当にありがとうございました。

清水大さん国スポ優勝



▲国スポ優勝おめでとう

第七十九回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会「あきた鹿角国スポ二〇二五」が二月十四日、秋田県鹿角市花輪スキー場で開催され、ジャイアントスラローム成年男子Cの部門で優勝（タイムは51秒42）した清水大さんが二月二十一日、役場を訪れ村長への優勝報告を行いました。

「強豪が集まる大会は、一本勝負でミスが許されない状況であったが、聖高原で練習した成果を発揮し、優勝できてうれしかった。

『麻績村が日本一です！』と話し、指導員の資格を取得したので、聖高原スキークラブジュニアの子どものためのコーチとなって育成に努めていきたいと力強く語ってくれました。

森永康平さん 経済について講演



▲森永康平さん

公民館と商工会と共催の新春講演会を二月十一日に地域交流センターで開催しました。「誰も教えてくれないお金と経済のしくみ」と題して、経済アナリストの森永康平さんを講師にお招きし、村内外から二五〇人以上が集まりました。

森永さんは経済についてわかりやすく話され、現在日本が進んでいる物価が継続して上昇する状況は、インフレーション（インフレ）ですが、「需要が増えることとで生じるデマンドプッシュ型」と、「人件費や原材料などの高騰で生じるコストプッシュ型」の二つがあり、それぞれ政策は異なると話しました。また日本銀行が継続して進めている金利を引き上げるといふ政策に対して、賛成・反対両方の意見について解説をし、本人は反対の立場を示しました。経済を理解していない政治家には投票しないようにと会場の笑いを誘いました。



▲わかりやすい解説

第二十一回 村長杯囲碁大会

第二十一回村長杯囲碁大



▲静寂のなか腕を競い合いました

会が二月二十三日に地域交流センターで開催され、村内外から十三人の参加者がありました。

AリーグとBリーグ六人ずつにわかれ、腕を競っていました。

大会の結果は、次のとおりです。

総合優勝 飯森英哲（横屋）
Aリーグ
優勝 刈間永伯（坊平）
準優勝 小池卓三（生坂村）
第三位 田内正一（松本市）
Bリーグ
優勝 飯森英哲（横屋）
準優勝 飯島 正（筑北村）
第三位 西澤高貴（筑北村）



松本パルコが二月末で閉店となった。一九八四年の開業から四十年、松本市の中心で若者文化を育んできた。

た。かつては年間九十五億円を売り上げた時期もあったそうだが、ネット通販の台頭やイオンモールなどの郊外型施設に客足を奪われ、近年は約四十億円に低迷。老朽化による改修費用も重なり、閉鎖が決まった。

村民のみなさんの中でも、学生時代を松本で過ごした方などは思い入れも強く、懐かしさとともに寂しさを感じ、閉店を惜しむ方も多いのではないだろうか？

しかし、便利さを求める生活者の変化は止められず、時代の波に抗えなかった。跡地は商業と公共施設の複合ビルが検討されているが、具体化は未定だ。

松本パルコの閉店は、地方都市が抱える商業の衰退と再生の難しさを物語る。街の魅力をどう取り戻すか、その答えが今、求められている。

小学生からの提案 第十九回子ども議会

第十九回子ども議会が一月二十七日、役場議場で開かれ、小学六年生の児童が村側に模擬議会形式で質問し、答弁を求めました。

児童の代表二人が交代で議長として議事を進行し、四グループが「もっと聖高原スキー場を親しんでもらうには」や「聖高原駅を魅力的な麻績村の玄関口にするには」などといった課題を見つけ、それに対する解決案を自分たちで考え、魅力ある村への提案をしました。



▲村長に答弁を求めます



▲緊張の中であげました

鬼を追い払え 麻績保育園豆まき

節分にちなんで麻績保育園では、二月三日に豆まき行事を行いました。

突如現れた二体の鬼に向かって、豆にみたてた新聞紙を「鬼は外、福は内」と叫んで投げました。

途中から麻績消防署が考案した「カジダー」も味方に加わり、火の玉にみたてたボールを投げ、見事に鬼たちを追い払っていました。豆まきが終わると、麻績消防署の消防車と救急車を特別に見せてもらうという、めったにない機会に、園児たちは目を輝かせていました。



▲消防車に興味津々



▲「カジダー」も参戦

第八回村長杯麻雀大会

第八回村長杯麻雀大会が二月十六日に麻績学舎で開催され、村内十六人の麻雀

愛好者が集まり、熱戦を繰り広げました。

大会の結果は、次のとおりです。

優勝 宮下 朗（明治町）
準優勝 塚原勝幸（明治町）
第三位 荻原英二（松本市）



▲いざ勝負！

筑北地域の展望は

J A 松本ハイランド麻績支所・聖南支所の支所協同活動合同講演会が二月二十二日に地域交流センターで開催され、約六十人が集まりました。

講師に一般社団法人長野

県農業地域開発機構研究所長の小松泰信さんを迎え、「地域の農と暮らしを次世代につなぐために」麻績筑北地域の明日を展望する」と題して講演しました。キーワードは「地域共生社会づくり」で、地域社会に関わる人々が連携して地域をつくっていくかなければならないということです。

この地域に来なくなる、そして住みたくなくなるようにするためには、「医（保健・介護をふくむ）、食・職住（子育て・教育・防災を含む）」の環境整備が必要と強調されました。



▲地域共生社会とは

元氣通信!!

今月の小・中学校

麻績小学校

「聖学級」「なかよし教室」と「まなびの教室」の紹介をします。

聖学級では

子どもたちの願いにより
そい、いろんな人と交流し
たり体験したりすることを
通して、楽しみながら自立
的な生活を目指す生活単元
学習をしています。

なかよし教室では

バジルを育て、あさつゆ、
シエンガルテン、とくら
麻績村役場での販売や、保
護者の方を買って頂きました。
売上げを使って子ども
たちが計画を立て、茶臼
山動物園へ行ってきました。
自立活動ではいろんな人と
関わり楽しみながら活動を
しています。

まなびの教室では

やりやすい方法を教師
と一緒に考え、「これなら
できるかも」と思ったら



▲茶臼山動物園行ってきました



▲ハロウィンで交流しよう！

日々の学習に取り入れたり、
「こんなときは、どうすれ
ばいいかな」など、自分の
ことを考えたりしています。

筑北中学校

職業調べ

一年 岩永 康介

僕は、総合の学習で、金
太郎飴（あめ）職人につ
いて調べました。金太郎飴職
人は、すごく楽しそうで、
唯一やってみたいと思った
からです。調べていくうち
に、いろんなことが分か
りました。飴作りは、難し
いし、力もいります。砂糖と
水あめで作った原料に色を
つけ、部品を作ります。組
み上げたら、五十kgにもな
るらしいです。しかも、飴
が固まらないように、二十
分で仕上げないといけない
ので、とても大変そうです。



▲飴職人の仕事内容は

知らないことをたくさん
知れたし、飴をどう作るの
か、お家の人の前で発表す
るいい機会になりました。

総合の学習で学んだことを、
二年生の職場体験に生かし
ていきたいです。

シエンガルテンの発表

二年 花岡 楓

私は、先日の参観日でシ
エンガルテンへの提案内
容を発表しました。施設や
キャラクターイベントにつ
いて発表しました。ずっと
前から何度も手直しを繰り
返して頑張ってきたので、
とてもいい発表をすること
ができました。

当日は、保護者の方とい
つしよにシエンガルテン
のオリジナルキャラクター
の色やプロフィールを考え
ました。私達だけでは生み
出せなかったアイデアを
もらうことができてうれし
かったです。三年生になっ
ても、実現に向けてみんな
と協力していきたいです。

ふるさとプロジェクト

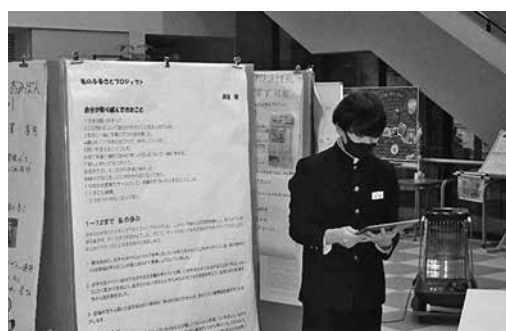
三年 渡邊 葵

私は今年の総合の学習で、
ふるさとプロジェクトに取

り組みました。去年の四月
後半辺りから始め、二月四
日の参観日にまとめを発表
しました。

この学習は、村への疑問
や、課題を個人で追究して
いく学習で、思うように物
事が進まないこともあり、
何度も困ることが私だけ
でなく、三年生全員があつた
と思います。ですが、全員
あきらめることなく、発表
することができました。

この総合の学習を通して、
私は、村の現状や課題をみ
つけられたので、自己理解
が深まり、良い経験になり
ました。この経験を今後の
生活にも生かしていきたい
です。

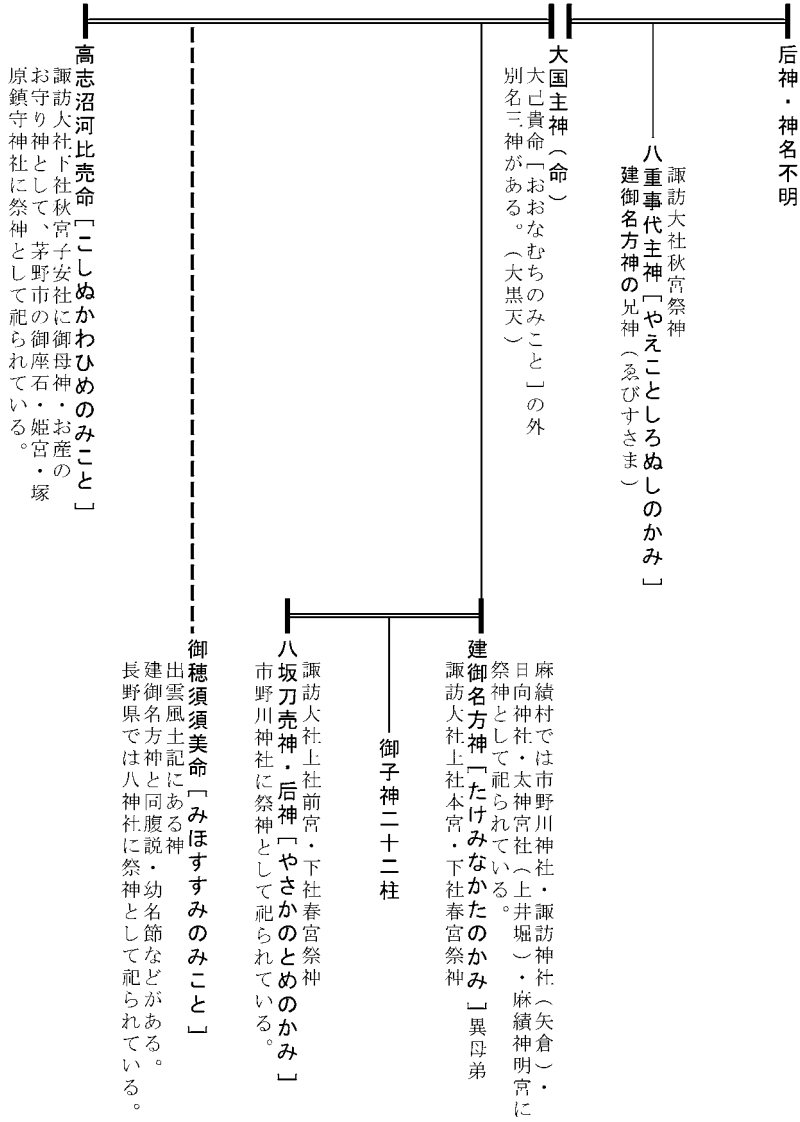


▲村の現状について勉強できました

麻績の神社と 雑鎌信仰について

(その四)

建御名方神「たけみなかたのかみ」の系譜



御穂須須美命について

和銅七一三年に元明天皇の詔によって、諸国の郡郷名の由来・地形・産物・伝記伝承などを記して、撰進された地誌「出雲風土記」では：高志の奴祭川郷の女神ヌナカワヒメと出雲の大神オオクニヌシとの間に御産れになったのが「御穂須美命」「みほすすみのみこと」とあると記されているという。

広辞苑に、島根の美保関町にある「美保神社」の祭神は、事代主神（建御名方神の兄神）と美保津姫命とある。

この祭神・姫神が「御穂須須美命」だという。

幕末に著された「諏訪旧蹟誌」は「建命名方神またの名は御穂須須美命と称す」と記されているという。

「みほすすみのみこと」は建御名方神の幼名説、同神説、同腹説（建御名方神の兄弟姉妹神）が入り乱れている。

御穂須須美命は、「航海

守護の神」と言われているが、海無し県の長野県にも祭神として祭っている神社が「信州の神事・長野県神社一覽」によれば八社ある。

佐久市に二社、上伊那郡宮田村に二社、飯田市に三社、中野市に一社である。

お諏訪さまのお膝元、諏訪茅野周辺には祭られていない。不思議な事実である。

建御名方神の 母神について

高志（越）「こし」の国（北陸地方）沼川（ぬなか）の郷（新潟県糸魚川辺り）の女神「奴奈川姫」（ぬなかわひめ）である。

広辞苑には、沼名河比命
「ぬなかわひめ」と、出雲
風土記は、奴奈宜波比売命
「ぬなかわひめ」とある。

大国主神の上陸伝説のあ
 る新潟県上越市の居多ヶ浜
 の居多「こた」神社に案内
 板があり、祭神は、大国主
 命・「奴奈川姫」・建御名方
 命の親子三神だという。

次号に続く
「寄稿」信濃史学会会員

飯森 忠幸

本の森だより

おみ図書館

本屋大賞 ノミネート作品発表

今年も本屋さんがお薦めの本を選ぶ本の祭典、本屋大賞の季節がきました。
二〇二五年のノミネート十作品をご紹介します。

図書館では全作品をご利用いただけます。お貸し出し中の作品はご予約も承っております。
推しの一冊を探しにぜひご来館ください。

アルプス席の母

早見和真 著



小学館

カフネ

阿部暁子 著



講談社

禁忌の子

山口未桜 著



東京創元社

救急医・武田の元に搬送された、自分にそっくりの遺体「キュウキュウ十二」。これは一体誰なのか。旧友で同じく医師の城崎と共に、遺体の正体、そして自分のルーツを辿り始める。

恋とか愛とかやさしさなら

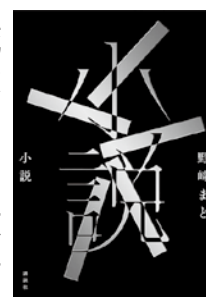
一穂ニチ 著



小学館

小説

野崎まど 著



講談社

死んだ山田と教室

金子玲介 著



講談社

交通事故で死んだはずの二年E組の山田の声が教室のスピーカーから聞こえ出す。

クラスの皆とバカ話したいと言う山田。

声だけの存在になって教室に留まっているのはなぜか。

spring

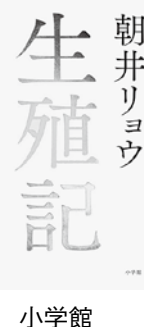
恩田陸 著



筑摩書房

生殖記

朝井リョウ 著



小学館

成瀬は信じた道をいく

宮島未奈 著



新潮社

前年度本屋大賞「成瀬は天下を取りに行く」の続編。引き続き滋賀県大津市を舞台に、主人公の成瀬が高校生から大学生へと成長し、様々な人の人生と交差する物語。

人魚が逃げた

青木美智子 著



PHP研究所

小学校図書館だより

楽しかった紙芝居の会！
毎回紙芝居の会の方には、郷土の伝統文化や慣習等について、紙芝居を通して教

1月の図書館

来館者数 325人
貸出冊数 856冊
ご来館ありがとうございます。



▲どっちの紙が丈夫かな？



▲和紙のでき方がわかったかな

えていただいております。
今回は五・六年生を対象に、紙漉きについてのお話をしていたきました。和紙になるまでには多くの工程があり、大変な作業をして出来上がっているということを知った子どもたち。さらに和紙と洋紙で丈夫さを比較してみても、和紙の優れた性質も実感することができました。

「麻績かるた」 「麻績村トリビア」

戦争の
怖さを知らぬ
人が増え



第二次世界大戦が終わって八十年。幸い私たちの国は戦争の直接な舞台にならず、その後の時を過ごしてきました。一方で、かつて戦争をしたという事実が「ぼんやり」してきている気がします。「真実」は見ると側によって形を変えるあまいなもの。でも悲しみ、苦しみ、飢えなどの事実は確かなもの。怖さを知っている人たちの事実をきちんと後世に伝えていかなければならないと思います。

聖高原ジュニア ジャイアント スラローム大会

昨年度は雪が少なく中止となったため、二年ぶりとなる第二十七回ジュニアジャイアントスラローム大会が二月二日、聖高原スキー場で開催されました。

当日は雪が舞う寒い一日でしたが、聖高原スキークラブをはじめ、東京など村内外からも多くの参加があり、一秒でも時間を縮めようと滑走していました。大会の結果は、次のとおりです。



▲タイムを競う

小学生一部

(一〜三年の女子)

優勝 雑賀 千咲 (東京都)

準優勝 ロック春那 (松本市)

第三位 寺崎 夕真 (松本市)

小学生二部

(一〜三年の男子)

優勝 岩下 結飛 (塩尻市)

準優勝 工藤 昌斗 (やぶはらジュニアスキークラブ)

第三位 中山 陽介 (大町市)

小学生三部

(四〜六年の女子)

優勝 茂木 咲良 (聖高原スキークラブジュニア)

準優勝 原暖 乃香 (やぶはらジュニアスキークラブ)

第三位 大矢 小春 (やぶはらジュニアスキークラブ)

小学生四部

(四〜六年の男子)

優勝 沓掛 暖 (青木村)

準優勝 原 快斗 (塩尻市)

第三位 谷 新太 (富士見町)

中学生五部

(一〜三年の女子)

優勝 原 たまき (松本市)

準優勝 田中モア利奈 (松本市)

第三位 佐々木瑛里奈 (松本市)

中学生六部

(一〜三年の女子)

優勝 谷 彦一 (富士見町)

準優勝 工藤 愛斗 (やぶはらジュニアスキークラブ)

第三位 竹澤 奏有 (聖高原スキークラブジュニア)

幼児七部

(小学生未満)

優勝 近藤 圭 (やぶはらジュニアスキークラブ)

準優勝 沓掛 世 (青木村)

第三位 矢野琥斗来 (安曇野市)



▲入賞おめでとう

第二十七回聖高原 スノーフェスティバル

第二十七回スノーフェスティバルが二月二十三日に聖高原スキー場で開催されました。

天気が良く、多くの親子連れの皆さんが参加され、輪投げ、バナナボート、たる転がしなどのゲームで盛り上がりしました。



▲スリル満点バナナボート



ご冥福を祈る

山崎 妙子	70歳	上町
市ノ瀬 敏子	99歳	横辻
加瀬 義枝	88歳	本町
三浦 幾代	102歳	高
宮下 昌子	87歳	明治町
久保田 光雄	79歳	明治町